



目には青葉

山ほととぎす 初鰹がっお

山口素堂



ほととぎす

緑まぶしい季節、ホトトギスの鳴き声が聞こえてきます。

野山を散策するとウグイスなどの声に交じってひととき高く鳴いています。

どこで鳴いているのだろうか、探してみてもなかなかその姿を見せてくれません。

夏の到来を告げて鳴いているようでもあります。

ホトトギスを漢字にあてると、時鳥、不如帰、子規などいくつも出てきます。

ホトトギスは自分の巣を持たずに、他の鳥の巣に産卵し、ついでに育ててもらおうといいわば、ずうずうしい鳥です。鳥の世界の子育てもいろいろあるようです。ホトトギスの子どもは本当の母親を知っているのか、少々余計なことを考えました。

ところで、一人暮らし世帯の割合が初めて3割を超え、家族類型別のトップになりました。一人暮らし世帯が「夫

婦と子ども」の世帯を上回っています。未婚者や高齢者の増加が一人暮らしの数を押し上げているとのことです。

少子・高齢化と同時に一人暮らしの人が確実に増え、将来の地域の有り様や暮らしを考えるといよいよ深刻な様相です。私の子ども時代、日本の家族規模は平均5人強であったことを思うと隔世の感があります。

6月「父の日」。

ある会社が「お父さんに贈る漢字一文字」を募ったら、「謝」が一番多かったそうです。子どもからの感謝の気持ちが伝わってきます。

とかく煙たがられ、川柳に「父帰る茶の間の子供ら部屋帰る」と皮肉られたりすることもありますが、「謝」の一文字にホッとしたのは、私だけではないようです。「継」もありました。普段は気付かない

ですが、どこかに父から継いだものがあると感じてのことでしょうか。

母の日に比べて影の薄い父の日ですが、声には出さないけれど、子どもの父親への感謝の気持ちには変わらないものがあります。

父とはそんな存在だとあらためて感じます。

ホトトギスの鳴き声を聞きながら、家族について深く考えさせられた「6月第3日曜日・父の日」です。

指宿市長 豊留悦男

